

収益構造の抜本的な変革に 継続的に取り組み 双日発足以来の過去最高益を 2期連続で更新



代表取締役社長
藤本 昌義

株主の皆さまには日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年3月期は、多くの国・地域で、新型コロナ関連の規制が緩和されました。国内外の往来を含めた人の流れも徐々に戻り、社会は新たな日常を見出し、前に進み始めました。

中期経営計画2023の2年目は、成長戦略に基づく注力領域への投資の実行と収益力向上に取り組んだ結果、連結当期純利益(当社株主帰属)は1,112億円となり、当社発足以来の過去最高益を2期連続で更新するとともに、初めて1,000億円を超過しました。利益分配につきましては、2023年3月期の年間配当を1株あたり130円とし、前期比24円増配としました。また、基礎的営業キャッシュ・フローは1,452億円と、キャッシュ創出力も着実に高まっています。

これまでに創出した基礎的キャッシュフローの黒字を成長投資に振り向けるとともに、株主さまへの還元と資本効率の向上を目的として、2023年度上期に1千万株あるいは300億円を上限とする自己株式の取得を実施しています。また、将来の株式価値の希薄化懸念を払拭するため、2023年4月には約1,530万株の自己株式の消却を行いました。

これからも、安定的かつ継続的な配当の実施と内部留保の拡充を両立し、企業競争力と株主価値の拡大を追求してまいります。

次期中期経営計画を見据え 総合商社に求められる 機能・役割を意識し 新たな価値と豊かな未来を創造する

2024年3月期は、中期経営計画2023の最終年度となります。2023年3月期の実績も踏まえ、当社グループが1,000億円レベルを稼ぐ自信を示す計画を策定いたしました。2024年3月期の年間配当につきましては、一株あたり130円を下限といたしました。現在未達のPBR1倍超を含め、引き続き、全KPIの達成に向け取り組んでまいります。また、次期中期経営計画も見据え、「マーケットインの徹底」「共創・共有の実践」「スピードの追求」に基づいた競争優位性・成長マーケットの追求、全社的なデジタルの実装、価値創造の源泉となる人材の育成・活用の継続に加えて、当社グループの成長性をより実感いただけるような情報開示にも取り組んでまいります。

今後も持続的な成長と企業価値の向上を達成するため、未来において総合商社に求められる機能・役割を常に意識しつつ、さらなる価値創造に取り組んでまいります。

株主の皆さまには、当社グループの理念と戦略をご理解いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期純利益の実績と見通し

(単位:億円)

22年3月期 実績	23年3月期 実績	前期比 増減	24年3月期 見通し
823	1,112 (過去最高益)	+289	950

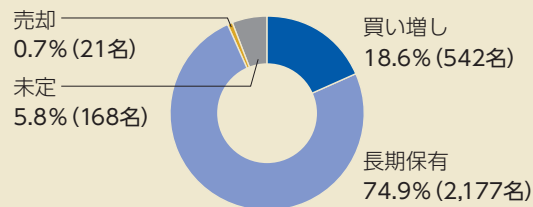
TOP MESSAGE

『双』2022冬号 アンケート結果のご報告

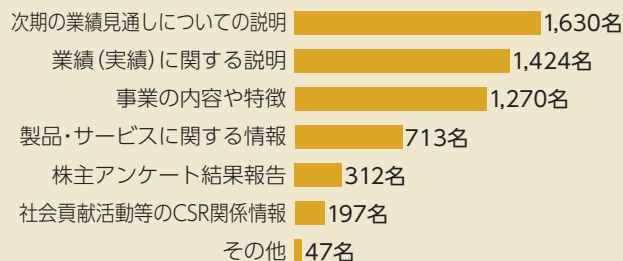
- 調査対象:2022年9月30日時点で議決権を有する株主さま
- 実施期間:2022年11月30日~2023年1月31日
- 回答者数:2,908名

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。一部ではございますが、結果をご紹介します。

Q あなたは当社の株式に対してどのような方針をお持ちですか。



Q 今後、充実を希望する情報をお選びください(複数可)。



株主の皆さまからのコメント

- ・文字より図やイラストの説明を増やしてほしい。
- ・ダイバーシティに関する取り組みを紹介してほしい。
- ・同業他社との差別化についてより詳しく教えてほしい。
- ・新たなビジネスの種がたくさん蒔いてあると分かり、たいへん頼もしく喜ばしいと思った。
- ・現状の急激な円安および物価上昇への対応を的確に行い、いまの好業績を継続していただきたい。

集計結果およびご意見は、今後の経営およびIR活動に活かしてまいります。ご協力ありがとうございました。